

パラアスリートの心理・社会的課題と今後についての検討

ーパラアスリート雇用がもたらす影響ー

氏 名 山下廉太

指導教員 松田 憲

要旨

2021 年の東京パラリンピック開催により、パラスポーツの認知度は高まっている。筆者も大学時代からパラスポーツの普及活動に関わっている。特に車椅子ソフトボールというパラスポーツに力を入れており、その普及活動を行っていた。そのような活動もあって、若干ながら車椅子ソフトボールへの参加者の増加に貢献してきた。

しかし、2020 年 1 月に日本で最初の新型コロナウイルス感染者が確認されて以降、感染者は増加の一途を辿り、国民の行動は制限された。福岡県内の公立大学である A 大学では、大会やイベントの開催のみならず練習会も制限され、更に厳しい状況となった。この状況がパラアスリートたちの現在と今後の活動に大きく影響を与えていることは明らかである。

その一方で、東京パラリンピックの開催を機に企業のアスリート雇用は拡大し、長期協賛に踏み切る企業も現れている。しかし、パラスポーツは認知度が高まりつつあるとはいえ、アスリート雇用の面ではまだまだ不十分である。アスリート雇用の拡充にはパラスポーツの更なる活動促進が前提となり、そのためには、雇用面のみならず、スポーツを続けるための支援の充実が欠かせないと考えた。そこで本研究では、パラアスリートが日常生活を送りながらスポーツを続けていく過程において、十分に能力を発揮して満足した競技生活を送るためには、雇用や支援に対してどのようなことを求めているのか探ることを目的とする。

研究方法はパラアスリート 4 名を対象にライフストーリーインタビューを行った。また、ライフストーリーインタビューでは、雇用や支援を中心に、障がいを抱えてから現在に至るまでの間のパラアスリートとしての人生経験を尋ねた。直接インタビューを行うことで、よりリアリティーのある内容を聞き出し、本研究がパラアスリートのための架け橋になることを目指した。その結果、4 名の対象者からは共通して金銭面での支援

が欲しいという声があがっていることがわかった。また、新たに時間の支援を必要としていることを発見することもできた。しかし、パラスポーツ自体の盛り上がりや知名度が低いことから、企業はあまりメリットを感じておらずアスリート雇用や様々な支援を受けるにはまだまだ課題があることがわかった。

今後の流れとしては、パラスポーツがなかなか普及していかない原因を探るために、より多くのパラアスリートからの意見と、プラス α で企業側の意見も聞くことで、双方の意見や認識の相違および合致している点を見出すことを目指す。これらを明らかにすることができれば、パラスポーツの普及に更なる貢献ができると考える。そのためにも、筆者は今後も継続してパラスポーツの普及に関わっていきたい。

